

# 育児休暇をいただいて。

今回、男性の育児参加についての原稿の依頼がありました。この機会に、私なりに経験から感じたことを書かせていただくことにしました。

2009年の11月に市長選挙があり、無駄な公事業の是非を論点に選挙戦に臨んで、皆さんのご支援を頂き、33歳で当選就任させていただきました。その後、妻と入籍をしましたが、今年の8月末には第一子の長男が誕生しました。

妻の出産は伊勢市内にある助産院。

高校、大学とテニスをしていたこともあり、体調管理はしっかりとしていましたし、初めての出産に対する精神面のサポートも助産師さんに助けてもらっていました。そういう環境もあり、安心して出産、育児を迎えることができると思っていたのですが、いざ産まれてみると、出産後の母乳がなかなか出にくく、乳房が真っ赤に腫れ上がるような状況になりました。

子どもはおなかが空いて泣き続けました。母乳はなかなか出ずに苦しみ、そのうえに睡眠不足に陥るという悪循環の日々の中で、妻の口から「産後ノイローゼになる気持ちが分かる」という一言がこぼれました。

彼女自身は、その言葉は覚えていないようですが、万全の出産環境であると思い込んでいた私にとっては頭の中が真っ白になるぐらい衝撃的で、何をどうすべきか、答えが出ませんでした。

退院後も、子宮内膜症や乳腺炎といったトラブルが続き、40度近い高熱に悩まされる日々が続きました。

私自身、反省していることとして、出産前の健康的な姿しか見ておらず、産後の心身の疲労を背負っていた妻の気持ちを理解することができていなかった。仕事の忙しさを言い訳に、十分なサポートをせず、何度もイヤな思いをさせてしまいました。

そのなかで、妻から「できることだけでも良いから。」という言葉があり、朝食作りや、食後の洗い物など、できることから家事や育児に携わるようになりました。

伊勢市長 鈴木健一

そして、多忙な公務の中、3日間の育児休暇を取得しました。

育児休暇の3日間は、朝起きて、布オムツの交換。(一日に20枚は交換するでしょうか? 紙おむつと比べて、ゴミが出ない! 繰り返し使えるので、一ヶ月5000円程度の節約になります。)

寝る前に作っておいた昆布の出し汁でお味噌汁を作り、朝食の準備をし、後片付け。

この間、妻は授乳や洗濯物をして、お昼は、私が子どもを見ている間に、妻が夕食の買い物に出かけたりしました。

3日間、これと言って特別なことはしていませんが、日ごろは寝ている子どもの顔しか見えていなかったので、読み聞かせをしたり、歌を歌って寝かしつけたり、そばにいる楽しさと、一対一で向き合わなければならぬ、逃げ場の無い辛さを痛感しました。

日々成長し続けている子どもの顔を見ていると、心が安らぎ、また自分自身の仕事の励みとなっていますが、連日の児童虐待の報道を見ると、「どうしてこんなにかわいい子どもを。」と心が痛みます。

厚生労働省の調査で平成11年には2万件以下であった児童虐待の相談件数が、現在4万件を超え、三重県においても緊急アピールが発表されました。

そして平成21年に実施した伊勢市の子育てに関するアンケートにあった(抜粋したものです)「何かあったとき子どもを預ける人がいない家庭=10%」「産後の精神的、肉体的な疲労が残る方=31%」という結果と、3日間の育児休暇を通じて、子育て支援の必要性を理解することができました。

子育てしやすい環境を作るには、保育サービスの充実や保護者や地域のネットワーク作りなどが必要となっていますが、それと同時に、これまでの男性は仕事、女性は家庭という家族や社会の価値観の変革が大切と考えています。

また児童虐待が増え続けている要因のひとつとして、今まで政治や行政を担う現場において、子育てに積極的に参加してきた人が少ないともあるのではないかと思われます。



育児休暇の取得表明後、賛否両論ご意見を頂いていますが、子育て支援のNPO、ボランティア団体の方々から、子育てに対するご意見をたくさん頂きました。

先日も20代~30代のお母さんたちと子育て支援のあり方について意見交換会をさせていただき、公共施設や災害が起きたときの避難所の授乳コーナーの設置、保育料制度のことなど、沢山のご意見を聞かせていただきました。しっかりと協議が必要なものもありますが、早急に実現できるものは着手をはじめています。

今後、超高齢化社会を迎える上でも男性の育児、介護への主体的な取り組みが必要であり、また女性が働きやすい社会を構築する上でも、今回の育児休暇によって、産後の心身の疲労の存在、授乳やおむつを替える場所の必要性、それと日ごろの妻への心遣いが何よりも大切であるという、気づきをいただくことができました。

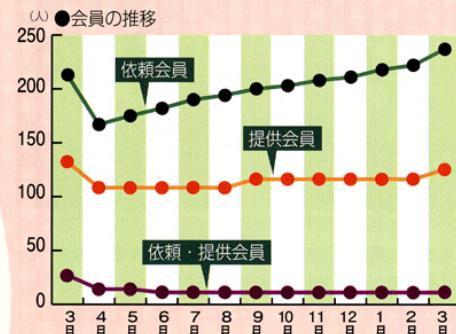
■ ■ ■

少子化から【笑子化】、高齢化から【幸齡化】の伊勢市とつながるように、現場の声、そして当事者の意識に近づいていく努力を続けていきたいと思います。そして、また皆さんのご意見も頂戴できれば幸いです。

## 活動状況

サポートサービスはこんな時、こんな風に利用されています!

●会員数 372人  
(23年3月末)  
●依頼会員 236人  
●提供会員 125人  
●依頼・提供会員 11人



### ●活動状況について

(22年4月~23年3月までの事例と利用数)

保育施設の保育開始時や 保育終了後の子どもの預かり	275
保育施設等までの送迎	868
放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり	8
学校の放課後の子どもの預かり	6
冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の 子どもの預かり	0
買い物等外出の際の子どもの預かり	28
その他	253
病児・病後児の預かり	6
宿泊を伴う預かり	2
その他(早朝・夜間等の緊急時の預かりなど)	181
上記に伴う保育施設、 病児・病後児保育施設自宅等の間の送迎	1

平成22年度 利用数(累計) のべ1628回

キャンセル回数 204回